

日本オラクル

三菱東京UFJ銀行が「Oracle Coherence」で外国為替情報のリアルタイム処理を実現

日本オラクルは、三菱東京UFJ銀行が自行内に提供する外国為替レートなどのマーケット情報の配信基盤として、同社のインメモリ・データグリッド製品「Oracle Coherence」を利用し稼働したことを発表した。導入の結果、毎秒約200件のレート更新が行われる外国為替情報を安定的に受信・加工処理し、外国為替取引業務に対する鮮度の高い情報配信を可能にした。

三菱東京UFJ銀行では、為替インターバンク・システムの保守終了が近づいたことを機に、その取引機能を支えるマスター情報や外国為替レート情報などの共通情報を一元的に管理する共通基盤の再構築を2010年度より検討開始した。今後の情報量および変更頻度の増加、計算処理パターンの多様化といったビッグデータ時代を見据えた規模拡張性の高いアーキテクチャが重視され、その中核のインメモリ基盤として「Oracle Coherence」が採用された。本システムは「Oracle WebLogic Server」および「Oracle Database」とともに構築され、2012年8月より稼働開始している。

「Oracle Coherence」は物理的に異なる複数のマシンを仮想的に統合した共有メモリ領域を実現できる。これにより物理マシンのメモリ搭載量の上限を気にすることなく、大量の情報をインメモリに保持することが可能になる。

本システムでは「Oracle Coherence」によって複数のIAサーバを統合した共有メモリ領域を構成し、為替レートなどの変動性の高い情報をインメモリ処理することを可能にした。これにより、従来を大きく超える頻度でのレート情報の受信・加工・計算処理を実現し、それを国内の災害対策拠点にインメモリ通信で複製させている。

日本オラクル TEL : 03-6834-4837

日本オラクル/アシスト

デジジャパンがクラウドサービスのDB基盤に「Oracle Database Appliance」を採用

日本オラクルとアシストは、オラクルの高可用性データベースとハードウェアを一体化したエンジニアド・システムの最新版「Oracle Database Appliance X3-2」が、デジジャパン（本社：東京都港区）に採用されたことを発表した。

寺岡精工グループのIT戦略会社であり、クラウドサービスやPOSレジ販売を軸に事業展開するIT総合ソリューション企業であるデジジャパンでは、売上、仕入れ、勤怠管理をまとめてサポートするフードサービス統合システム「DELIOUS」、流通業界向け包装ラベルシステム「@LABEL」、クリーニング業界向け店舗管理システム「ASTEMPO for Cleaning」をはじめとしたクラウドサービスを日本国内はもとより海外に向けても提供している。同社が提供するクラウドサービスの基盤となるデータベース・システムは、これまでアクティブ/スタンバイ構成の「Oracle Database Standard Edition」を中核としたシステムを増強することで、サービス拡充、ユーザー数の増大に対応してきた。しかし、クラウドサービスという特性上、24時間365日の安定稼働が必須であることに加え、今後国内での事業強化および海外への展開によるサービス拡大やさらなるユーザー数増加を見据え、2013年2月より本格的なシステム刷新に着手。汎用サーバでの構築も含め検討を重ねた結果、ダウンタイムの最小化と安定稼働の実現、新システムの導入までの人的リソースやハードウェアも含めた構築費用、サービスごとに保守・運用してきた負荷の軽減を実現する「Oracle Database Appliance X3-2」の採用を決定した。

日本オラクル TEL : 03-6834-4837
アシスト TEL : 03-5276-5850